

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	2 2 3	人
② 数学	2 2 3	人
③ 理科	2 2 0	人

5 留意事項

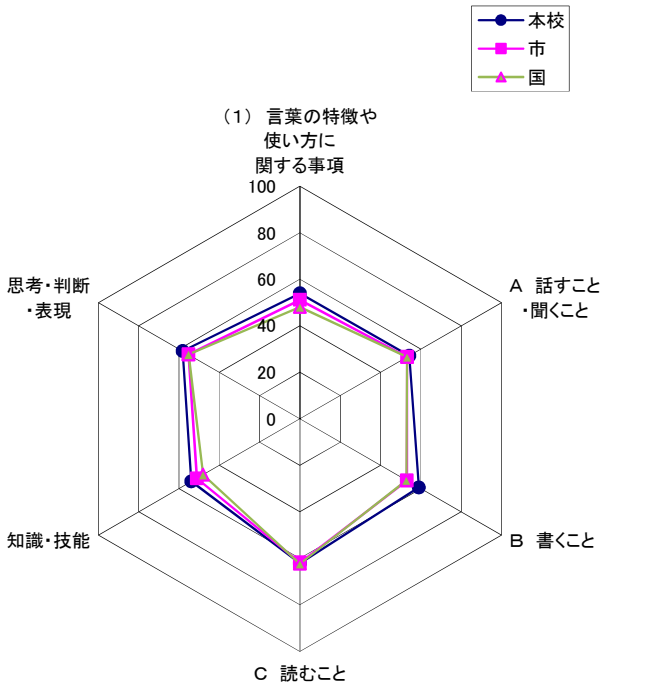
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	53.9	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化にに関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	54.3	53.2	53.2
	B 書くこと	59.0	53.1	52.8
	C 読むこと	62.1	61.8	62.3
観点	知識・技能	53.9	51.1	48.1
	思考・判断・表現	58.2	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

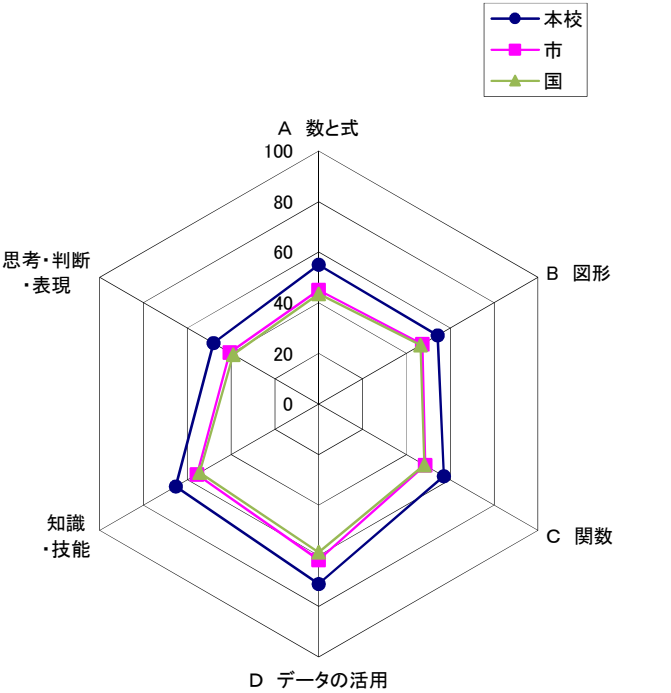
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○領域の正答率は53.9%で、全国の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●【漢字の使い方】に関する問題の正答率が全国の平均正答率を9.5ポイント上回っているのに対して、【語彙についての理解】に関する問題の正答率は全国の平均正答率と比べると僅か2.0ポイントの差しかない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、新出単語の意味や使い方を確認したり、短い例文を作ったりするなどの時間を設けることで語彙力の向上を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化にに関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○領域の正答率は54.3%で、全国の平均正答率を1.2ポイント上回っている。 ●【論理の展開に注意して話の構成を工夫する問題】の平均正答率が72.6%で全国の平均正答率を0.8ポイント下回っており、【内容をより分かりやすく伝えるための工夫に関する問題】の平均正答率は19.6%で3.6ポイント下回っている。	・分かりやすい文章の展開や話の構成についてガイダンスを行ってから活動に入るなど、授業の展開を工夫して生徒に力を身につけさせる。 ・クロムブックを使用し、自分で情報を取捨選択して考えをまとめる活動を取り入れる。
B 書くこと	○領域の正答率は59.0%で、全国の平均正答率を6.2ポイント上回っている。特に【読み手の立場に立って文章を整える問題】では、平均正答率が全国平均を14.4ポイント上回っている。 ●【表記を確かめて、文章を整える問題】の無解答率は22.8%で他の問題と比べると高かった。	・授業においてなかなか文章を書きだせない生徒には、箇条書きのメモ等で情報や考えを表出させてから書くよう支援する。
C 読むこと	○【表現の効果について根拠を明確にして考える問題】の平均正答率は81.7%で、全国よりも1.7ポイント上回った。 ●領域の正答率が62.1%と、0.2ポイントではあるものの全国平均を下回っている。特に【文章の構成や展開について根拠を明確にする問題】は15.1%と非常に低かった。	・授業において物語文の分析や批評の活動を取り入れ、なぜこうした表現の工夫をしているのか、それによってどういった効果が生まれているのかを考えさせるような指導をしていく。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	55.0	45.0	43.5
	B 図形	54.3	47.2	46.5
	C 関数	57.1	48.5	48.2
	D データの活用	71.1	61.6	58.6
観点	知識・技能	65.3	55.6	54.4
	思考・判断・表現	48.1	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○領域の正答率は55.0%で、全国の平均正答率を11.5ポイント上回っている。特に【目的に応じて式を変形したりして説明する問題】では正答率が60.3%で、全国の平均正答率を15.1ポイント上回っていた。 ●【予想が成り立つことを説明する問題】の正答率は31.1%で全国の平均正答率を5.4ポイント上回っているが、無回答が16.4%と高い。	・基本的な計算技能の習得のために、反復練習を継続して行っている。今後も継続し、より一層の定着を図る。 ・数と式の性質について文字を使って説明する問題に対して苦手意識がある生徒が多いので、数学的な表現を用いて説明する問題に触れる機会を増やしたい。順序立てて説明する演習を繰り返し、苦手意識をなくしていく。
B 図形	○領域の正答率は54.3%で、全国の平均正答率を7.8ポイント上回っている。 ●【平行四辺形の合同の証明問題】の正答率は39.7%と全国の平均正答率をポイント6.5ポイント上回っているが、低めではあり、無回答も18.3%に上る。	・図形の性質を説明する際に、根拠を記述し、順序立てて文章を構成することが苦手な生徒が多い。図形の基本的な性質や定義・定理を見直したい。 ・問題の図形を多角的に見ることで解決の糸口を見つけるよう指導していく。
C 関数	○領域の正答率は57.1%で、全国の平均正答率を8.9ポイント上回っている。 ●【式・グラフ・表等を用いて説明する問題】の正答率は46.6%と全国の平均正答率より8.6ポイント高いものの、無回答は25.1%と高い。	・式・グラフ・表から適した方法で説明することが関数の特徴である。それぞれについて理解して、場面に応じて使い分けることが必要である。 ・グラフ等を読み取り、問題を解決するためにも、それを言語化して伝える力が不十分であるので、問題を解決する方法について話し合う活動を取り入れる。
D データの活用	○領域の正答率は71.1%で、全国の平均正答率を12.5ポイント上回っている。特に、【ある事象の確率を求める問題】の正答率は82.6%で、全国の平均正答率を5.2ポイント上回っている。 ●値を用いて説明することが必要な問題で、値を求めるだけの解答が多い。	・代表値などを用いて説明する機会を増やしていく。代表値などもその都度確認をしていく。 ・確率を求める問題においては、樹形図や表を書いていくよう、繰り返し指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	57.3	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	62.7	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	49.2	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	40.0	36.7	37.3
観点	知識・技能	68.6	67.0	66.8
	思考・判断・表現	41.2	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

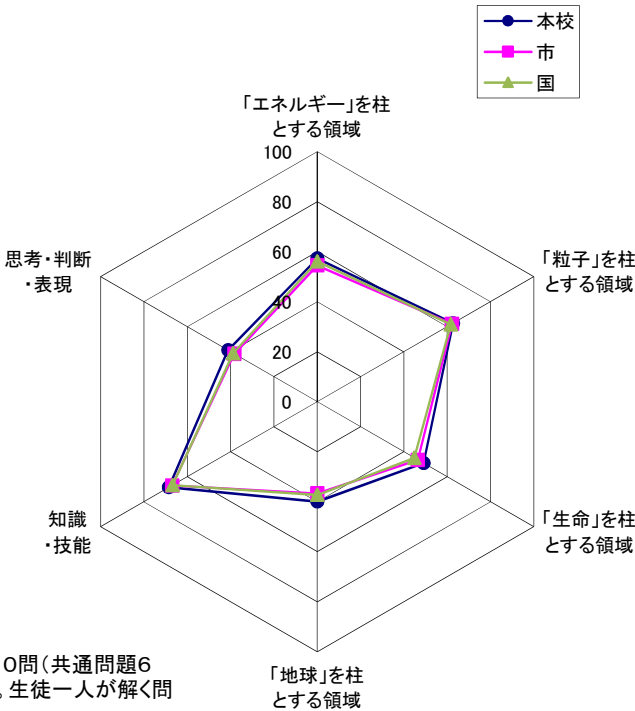
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値であ

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○領域の正答率は57.3%で、市の平均より2.8ポイント、国の平均より1.2ポイント高い。【実験の考察についての問題】【実験の仮説が正しい場合の結果を予想する問題】については、正答率が市や国の平均を大きく上回っている。 ●【回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する問題】では国の平均を下回っている。	・電流や電圧、抵抗について計算法を確認する。 ・身近な現象について探求する学習場面で、日常生活で使われている製品について興味をもたせ、数値を含め論理的に説明できるように題材を工夫し、知識を概念として身に付けていく。
「粒子」を柱とする領域	○領域の正答率は62.7%で、市の平均より0.5ポイント、国の平均より1.0ポイント高い。【化学変化をモデルで表す問題】については、市や国の平均を大きく上回っている。 ●【身の回りの事象から生じた疑問を解決するための課題設定に関する問題】の無回答率が5.1%、【探究の過程における振り返りを記述する問題】の無回答率が7.8%である。	・身の回りの現象について探究しようとする姿勢を身に付けるために、グループ活動で話し合いの場を多く設け、疑問に感じたことを言語化することで共有し、その解決方法について探究する時間をつくる。
「生命」を柱とする領域	○領域の正答率は49.2%で、市の平均より2.7ポイント、国の平均より4.4ポイント高い。【生命を維持する働きについての問題】【スケッチから分かることについての問題】については、市や国の平均を大きく上回っている。 ●【動物と植物の共通性と多様性についての問題】は正答率が39.1%である。	・動物の体内の臓器のはたらきと植物のそれぞれの器官のはたらきの共通点を知識として学ぶだけでなく、理由を説明できるよう、動物と植物の生態をもとに考察することで理解を深めさせる。
「地球」を柱とする領域	○領域の正答率は40.0%で、市の平均より3.3ポイント、国の平均より2.7ポイント高い。【地層から読み取れることを大地の変化に関連させ地層の重なりや広がり方を答える問題】については、正答率が市や国の平均を大きく上回っている。 ●【地域の言い伝えを科学的に探究する学習の問題】については市の平均をやや下回っている。	・身の回りの事象から疑問を生じさせることや、見出し出した問題を科学的に探究する時間を「粒子」の領域と同様、つくっていく。 ・地層や岩石など実物に触れる機会をもてるよう、博物館に協力を依頼したり、動画や写真で地域の自然現象に触れる機会を増やしたりしていく。



宇都宮市立星が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○【自分には、よいところがあると思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が90.9%である。また、【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。】という質問に対する肯定的な回答は95.0%で9割を超える。さらに、【困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。】の質問に対する肯定的な回答は77.8%で、全国平均より4.6ポイント上回っている。多くの生徒が安心して学校生活を送っており、自己肯定感を高めることができていていると言える。

○【学校に行くのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が88.7%で、全国や県の平均をやや上回っている。また、【友達関係に満足していますか。】の質問に対する肯定的な回答が89.5%で、良好な人間関係であることが伺える。否定的な回答をした生徒については、今後注意して見ていく。

○【1, 2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。】の質問に対し、生徒の肯定的割合は80.9%で、全国平均より3.2ポイント上回っている。授業における積極的な態度が身に付いている。

○【あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が87.7%で、全国の平均を11.1ポイント上回っている。総合的な学習の時間を中心にICT機器を使ってのプレゼンテーション(発表のスライド)作成に自信をつけていることがうかがえる。

●【1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。】の質問に対する肯定的な回答が36.4%で、県の平均を8.6ポイント、全国の平均を16.8ポイント下回っている。学校でICTを活用しているものの、授業における使用頻度が低いことが分かる。資料づくり等も含め、授業中の有効的な使用を考える必要がある。

●【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が80.4%で、全国の平均より1.2ポイント上回っているが、県の平均ポイントより1.4ポイント下回っている。様々な活動の中に、自分と他人の意見との違いについて考える機会があることを認識させ、違いも含めた友人関係を受け入れられる心情を育てていく必要がある。

●【理科の勉強は得意ですか。】の質問に対する肯定的な回答が56.8%で、全国の平均よりも6.1ポイント上回っているが、【理科の授業の内容はよく分かりますか。】の質問の肯定的回答が67.3%で、全国の平均よりも4.1ポイント下回っている。内容理解を確かめながら進める必要がある。

宇都宮市立星が丘中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 ・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成	・各教室に据え置きしたホワイトボードの活用ならびにClassroomや学びポケットの活用を推進する。 ・各授業において【本時の目標】を提示し、そのねらいに即した授業の展開をする。	・【自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。】の質問に対する肯定的な回答が80.4%で、県の割合より1.4ポイント、全国の割合よりも1.4ポイント上回っている。 ・【1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。】の質問に対する肯定的回答が80.9%で、全国割合より3.2ポイント高くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。】の質問に対する肯定的な回答が72.8%で、県の平均より3.6ポイント、全国の平均より0.6ポイント低い。	・振り返る活動の充実	・宇都宮モデルの「はっきり・じっくり・すっきり」の中で、学ぶことの良さを実感できる「すっきり」を目指す授業の展開に努める。 ・各授業の最後にノートやワークシートにまとめさせたり発表させたりする活動を、今後も継続して行う。 ・各授業において前回の授業を振り返り、本時の授業との関連性を確認する時間を設ける。